

科目名	看護人間工学 Ergonomics & Nursing		担当教員 (研究室番号)	大平肇子 (104) 市川陽子 (105)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	2年次後期	科目区分	専門支持科目		選択区分	選択	単位数(時間)	1(15)	授業形態	講義	科目等履修生	否
										オープンクラス	否	
科目目的	人間工学は、人間とそのまわりの環境をシステムとしてとらえ、これらの関係について解剖学、生理学、心理学などの領域から検討し、安全性、快適性、合理性を追求する学問である。本講義では、看護に関係の深い項目を題材とし、環境、ボディメカニクス、ヒューマンエラーやユニバーサルデザインなどの講義も行う。											
ディプロマ・ポリシー (DP)	主要なDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)										
	関連するDP	A 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観に基づいて行動することができる。(姿勢・態度) D 様々な職種との連携において、看護専門職者としての役割を理解し、多職種による協働活動に参加できる。(技能・表現)										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境と人間の関わりについての人間工学的な考え方を理解できる。</li> <li>2. 物理学と解剖学の視点でボディメカニクスを理解できる。</li> <li>3. 人間工学の視点で、ヒューマンエラーを理解できる。</li> <li>4. ユニバーサルデザインとUXについて理解できる。</li> <li>5. 人間工学の視点から看護実践を考えることができる。</li> </ol>											
成績評価方法(基準)	①出席(規定の出席に満たない場合は不合格となります)、②演習への取り組み姿勢(30%) ③演習課題(70%)											
再試験の有無と基準等	なし											
教科書	なし											
参考書等	看護の環境と人間工学(第2版)サイオ出版 JISハンドブック(2023 37-3) 日本規格協会											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	この科目は看護系の専門科目と深く関わっています。看護を学ぶ上で新たな視点が得られます。近年、看護領域における人間工学が多く現場で必要とされています。「工学」という暗く固いイメージにこだわらず、好奇心をもって受講してください。											
備考												
回	学習項目	学習内容	主担当教員	授業方法								
1回	看護人間工学とは	看護と人間工学の歴史的背景を概観し、看護人間工学とは何かを学ぶ。演習や実習での看護実践を振り返り、不便に感じたことについてブレインストーミングを行う。	大平他	演習								
2回	環境と人間	人間の特性と環境について学び、人間工学的な視点で快適な環境について考える。	市川他	講義								
3回	ボディメカニクス [1]	ボディメカニクスを理解するための力学と解剖生理学的、およびボディメカニクスについて学ぶ。	大平他	講義								
4回	ボディメカニクス [2]	ボディメカニクス活用した看護実践を体験し、看護実践への人間工学の活用について考える。	大平他	演習								
5回	安全と人間工学 [1]	ヒューマンエラーの特徴や発生要因について学ぶ。	市川他	講義								
6回	安全と人間工学 [2]	危険予知訓練を体験し、ヒューマンエラーの予防対策について考える。	市川他	演習								
7回	ユニバーサルデザインとUX [1]	ユニバーサルデザインとUX(ユーザーエクスペリエンスについて学ぶ。人間特性のデータ測定を体験し、人間中心設計について考える。	大平他	演習								
8回	ユニバーサルデザインとUX [2]	学内でフィールドワークを行い、ユニバーサルデザインについて考える。	市川他	演習								
学 習 課 題												
課題1(事後)第1回の授業で学んだこと、およびグループワークで話し合ったことを記録用紙にまとめ、提出する。(5%)												
課題2(事後)第2回の授業で学んだこと、および考えたことを記録用紙にまとめ、提出する。(5%)												
課題3(事後)第3・4回の授業で学んだこと、および演習の結果と考察を記録用紙にまとめ、提出する。(20%)												
課題4(事後)第5・6回の授業で学んだこと、および演習の結果と考察を記録用紙にまとめ、提出する。(20%)												
課題5(事後)第7・8回の授業で学んだこと、および演習の結果と考察を記録用紙にまとめ、提出する。(20%)												
実務経験を活かした教育の取組												
担当教員は看護職として実践経験がある。看護および人間工学について研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の教育を行う。												